

フロイトとユング

2017年追試

問4 人間の特性をめぐる考察を行った人物についての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 4

- ① ユングは、個人的無意識の奥底に、あらゆる人間に共通した集合的無意識があると考え、その構成について、アニマ、アニムス、グレート・マザーなどの仮説的な概念を用いて説明した。
- ② クレッチマーは、パーソナリティ類型論の観点から、人間のパーソナリティを六つの類型に分類し、それらを現実型、経済型、審美型、権力型などと名付けた。
- ③ ブーバーは、人間を社会的存在として捉え、他者の視点から見た自分(me)と、それに反応する自分(I)との相互作用の過程を通して、自己が形成されていくと考えた。
- ④ リンネは、人間が言葉や記号によって現実の世界を捉えることに注目し、人間を「象徴を操る人(ホモ・シンボリクス)」、「象徴を操る動物(アニマル・シンボリクム)」と定義した。

問6 次のア～ウのうち、フロイトの思想についての説明として正しいものはどれか。その組合せとして最も適切なものを、下の①～⑦のうちから一つ選べ。 34

- ア 人間には、性の衝動であるリビドーが蓄^{たくわ}えられている心の領域があり、この領域はエスと呼ばれる。リビドーは、文化的・芸術的に価値の高い活動に向かうエネルギーとなり得る。
- イ 人間には、差異を本質とする言語体系が意識にのぼらないかたちで存している。この言語体系はラングと呼ばれ、個々の具体的な発話行為に先立ち、発話行為を規定している。
- ウ 人間には、親や社会の教育によって形成される心の領域があり、それは超

2015 年本試

問 3 次のア～ウは、行動に関する様々な考え方を説明したものであるが、それぞれ誰のものか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

3

- ア 概念や思想の真理性は、それが実生活のなかの具体的な行動や実践においてどの程度「有用性」をもつかによって判断されねばならない、と述べた。
- イ 人間の行動や意識には無意識の領域が深く関与すると考え、とりわけ無意識における人類共通の性質に着目して「元型」と呼ばれる概念を提唱した。
- ウ 青年期の自己探求において、それまでに経験したことのない様々な役割を実際に行ってみることを「役割実験」と呼び、その意義について説いた。

- | | | | | | | |
|---|---|------------|---|------|---|-------|
| ① | ア | ジェームズ | イ | フロイト | ウ | エリクソン |
| ② | ア | ジェームズ | イ | フロイト | ウ | オルポート |
| ③ | ア | ジェームズ | イ | ユング | ウ | エリクソン |
| ④ | ア | ジェームズ | イ | ユング | ウ | オルポート |
| ⑤ | ア | ウィトゲンシュタイン | イ | フロイト | ウ | エリクソン |
| ⑥ | ア | ウィトゲンシュタイン | イ | フロイト | ウ | オルポート |
| ⑦ | ア | ウィトゲンシュタイン | イ | ユング | ウ | エリクソン |
| ⑧ | ア | ウィトゲンシュタイン | イ | ユング | ウ | オルポート |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 3	3	③	3

2013 年本試

問 5 次のア～エは，自我・自己・個性の形成と社会や他者との関わりについての考え方を説明したものである。その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。

5

ア マズローは，自己実現に至る欲求の五つの階層のなかで，身体の安全を求めめる欲求より上位に，他者に認められたい欲求をおいた。

イ フィヒテは，自己を伝統的な価値や社会の通念への従属から解放して，自由な価値創造の主体として肯定する意志を，力への意志と名づけた。

ウ マーガレット・ミードは，サモア島などでの調査から，歴史的・地域的な状況が個性の形成に大きく影響すると考えた。

エ ユングは，個人の社会的経験を通じて後天的に身についた集合的無意識と自我の関連を，神話や伝説の分析を通して指摘した。

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 | エ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 | エ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 | エ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 | エ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 | エ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 | エ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 | エ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 | エ 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 5	5	④	3

2011 年追試

問 1 次のア～オは心についてのフロイトの考えを記述したものである。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

1

ア 自我(エゴ)は、人間の本能的衝動とも言うべきもので、即座に欲求充足を求める快楽原理に支配されている。

イ 超自我(スーパーエゴ)は、理想や価値、禁止や命令の体系を作り、自己を観察して評価する機能を担っている。

ウ エス(イド)は、自我(エゴ)の本能的衝動を現実認識に照らして受け入れられるように調整する機能を担っている。

エ エス(イド)は、性や生産のエネルギーである「エロス」と、死や破壊のエネルギーである「タナトス」という両方向の本能的エネルギーの源である。

オ 自我(エゴ)は、現実認識を考慮しつつ快楽原理にも配慮するもので、超自我(スーパーエゴ)との調整役も担っている。

- | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| ① | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 | エ 正 | オ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 | エ 正 | オ 正 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 | エ 誤 | オ 正 |
| ④ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 | エ 正 | オ 誤 |
| ⑤ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 | エ 誤 | オ 誤 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 | エ 誤 | オ 正 |
| ⑦ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 | エ 正 | オ 誤 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 | エ 正 | オ 正 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	1	①	3

2008 年追試

問 2 人間関係のあり方に関連する様々な用語の説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

2

- ① 外向型 (外向性) : フロイトによって分類された性格類型で、心のエネルギーが外に向かいやすいため、他者に関心をもち、陽気かつ社交的で交際範囲が広い性格
- ② やまあらしのジレンマ : 他者と距離が遠すぎると孤独になり、近すぎても摩擦や衝突を起こすなど、他者との適度な距離を保とうとすることによって起こる人間関係の呵藤
- ③ 他人指向型 : リースマンによって名づけられた性格類型で、大衆社会における孤独と不安から、他者による承認を強く求め、その評価基準に身を委^{ゆだ}ねて他者に従う性格
- ④ 仮面をかぶった人間関係 : 自分が傷つくことをおそれるあまり、本音を隠して偽りの仮面をかぶり、他者に過度に同調することで表面的になってしまう人間関係

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	2	①	2

2007 年本試

問 2 フロイトが考えた無意識が現れる例として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 複雑な感情を抱いている相手の名前を，言い間違えてしまう。
- ② もう一度行きたいと思っている場所に，忘れ物をしてしまう。
- ③ 朝日が昇るのを見ると，^{だれ}誰もが荘厳な感じを抱いてしまう。
- ④ 気掛かりなことがあると，何かに追いかけられる夢を見てしまう。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	2	③	2

2004 年本試

問 3 理性的人間観を揺るがすことになった思想家の一人に精神分析学の創始者フロイトがいる。フロイトの学説に関する記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

32

- ① 自我は快感を求めるエス（イド）の要求を現実に適応させ、同時に良心としての超自我の命令にも応じようとする。
- ② ノイローゼ（神経症）の原因となるものは、心の深層としての無意識の中に昇華された性的欲求などの衝動である。
- ③ 欲求不満から生じる不安や緊張から自我を守ろうとする防衛機制は、欲求不満の原因となった当の問題を取り除く。
- ④ 両親の愛情を独り占めにしようとして、弟妹を邪魔者と感じる兄弟の心理を、エディプス・コンプレックスと呼ぶ。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 3	32	①	3

2004 年追試

問 6 人間形成をめぐって、多くの人々が様々な考えを提出している。そのうち、レヴィン、マズロー、ユングの考えとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。レヴィンについては に、マズローについては に、ユングについては に答えよ。

- ① 人間形成が十全になされるには、欲求の健全な充足を目指さなければならないが、欲求には、睡眠や飲食などの単に生理的なものだけではなく、その上位に位置づけられる、愛情や集団への帰属意識などの精神的欲求もある。
- ② 人間の心には無意識の領域があり、個人的なものと集合的なものがある。集合的無意識は個人的無意識よりも深い層にあり、そこには、元型という神話的な性格を帯びた普遍的イメージが生まれながらに備わっている。
- ③ 人生には、誕生から死に至るまで8段階の周期(ライフサイクル)があり、時間とともに自我は発達していくと考えられる。それぞれの段階には達成すべき課題があるが、その達成度が人の発達状況の目安となっている。
- ④ 人は青年期において自我に目覚め、精神としての自己という内面的世界を発見する。これは、いわば第二の誕生であり、第一の誕生が存在するための誕生であるとすれば、第二の誕生は生きるための誕生である。
- ⑤ 子どもは小さな大人ではなく、子ども独自の世界がある。しかしながら、子どもの認識能力は一定の段階を経て発達し、自己中心的だった段階を脱すると、他者を意識するようになり、客観的な判断もできるようになる。
- ⑥ 人が自分の行動を選択する場合、その人の所属する集団の価値観から強い影響を受けるが、生活空間が大きく変化する青年期においては、子どもの集団にも大人の集団にも属することができず、中途半端な状態に陥る。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 6	15	⑥	2
第 2 問	問 6	16	①	2
第 2 問	問 6	17	②	2

2002 年追試

問 7 現代の思想家たちも良心について考察している。そのうち、フロイト、ヤスパース、ハイデガーの考えとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。フロイトについては に、ヤスパースについては に、ハイデガーについては に答えよ。

- ① 良心は、人間が死、苦、争い、罪といった状況から逃避し、自己を喪失するのを妨げる。人間は良心を介して超越者を感じずるが、良心は超越者の声ではなく、自己自身の声である。
- ② 普通の人々の良心は、残酷さという本能が自己自身に向けられたものであり、一つの病理である。それに対して、真の良心は、自己に誠実であること、自己を肯定することを要請する。
- ③ 良心はきわめて複雑な感情である。それは、共感などの社会的本能に由来し、他人の称賛によって導かれ、理性、利己心、宗教的感情に支配され、教育や習慣を通じて強化される。
- ④ 良心の呼び声は本来の自己の声である。死への不安から逃れ、日常の世界に埋没し、平均的で画一的な存在になった人間に対して、良心は本来の自己というものに気づかせる。
- ⑤ 良心の呵責とは義務に反したときに感ずる苦痛である。人間は、刑罰のような外的な制裁によってだけでなく、良心の呵責という内的な制裁によっても、自己を規制するようになる。
- ⑥ 良心は、両親、教育者、社会的な環境の影響によって形成されるものである。それは、自己を監視する法廷、自我の検閲者として機能し、欲望や衝動を禁止したり抑制したりする。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 7	16	⑥	2
第 2 問	問 7	17	①	2
第 2 問	問 7	18	④	2